

専門分野

地域・在宅看護論（講義6単位 実習5単位）

1. 地域・在宅看護論の考え方

他国に類をみない早さで進展する少子・超高齢社会への移行及び疾病構造の変化に伴い、医療機関は治療に特化し、地域で生活しながらリハビリテーション、症状のコントロール、看取りなどの支援が必要となっている。これまでの、「治す医療」から「治し支える医療」へ転換し、住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向け、多様な場でのケアが必要となる。各種サービス機関と多職種がチーム医療を展開することが求められる。

地域・在宅看護は、地域で生活するすべての人が自宅やそれに準じた環境で生活できるよう、症状に応じた適切な医療の提供、相談、指導、のぞむサービスの提供、生涯にわたる健康づくりの支援をすることである。それは、保健・医療・福祉のあらゆる面から対象およびその家族に対して、「生活の質」の向上を目指す支援となる。

人間としての奥深さを理解し、地域で生活し続けることができるよう、ケアマネジメントを学び、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。各健康段階に応じた適切な看護ができるよう、対象を取り巻く環境やシステム、人的・物的資源の活用、地域のネットワークの構築に向けても専門性を発揮し役割を担えるよう学習を進めていく。

2. 目的

地域で生活する人々、地域で生活しながら療養生活をする人々、あるいは障がいをもちながら生活する人々とその家族を理解し、それぞれの環境に準じた場で生活できるよう看護（支援）することを学ぶ。

3. 目標

- 1) 地域で生活する人々の健康と生活を支える看護を知る。
- 2) 地域・在宅看護論の目的・特性を理解する。
- 3) 在宅療養生活する対象や家族の自己決定権を尊重しながら、その人らしい生活を支援する重要性を理解する。
- 4) 在宅療養生活する対象や家族を支える社会資源の活用及び多職種との連携や協働の必要性を理解する。
- 5) 対象、環境に応じた在宅看護実践の技術を学ぶ。
- 6) 対象の療養状態に応じた看護・継続看護を実施する。